**2月号の主な内容**

|  |  |
| --- | --- |
| P4 | 胃がん健診 受けていますか  国民健康保険から見た市民の疾病の様子 |
| P6 | 大崎市の地酒で乾杯！  大崎市地酒で乾杯を推進する条例が施行されました |
| P7 | 輝かしい新年の幕開け  第９回宝の都(くに)・活性化貢献賞・新春講演会・新年祝賀会 |
| P8 | 十年物語　～おおさき人の軌跡～  青少年のための大崎市民古川会議会長　小野寺昌之さん  古川消費者の会顧問　西川きゑ子さん |
| P9 | 地域づくりファイル  ④ 田尻地域 大貫かんぼやま委員会 |
| P10 | 市政トピックス　1月の主な出来事 |
| P11 | 地域発！お・ら・ほ・の・ま・ち |
| P12 | オオサキプレイガイド |
| P14 | 各計画に対する皆さんからの意見を募集します　ほか |
| P16 | 今月のお知らせ |
| P26 | 子育て支援情報 |
| P27 | 育児相談・乳幼児健診 |
| P28 | 休日当番医　ほか |

**今月の表紙**

　冬本番！ウィンタースポーツの季節が到来しました。暖冬傾向で雪不足が心配されていましたが、１月中旬の寒波で、オニコウベスキー場は一面の銀世界に。家族や仲間で、スキーやスノーボードを楽しむ姿が多く見られました。

　小さい子どもたちにスキーやスノーボードの楽しさを伝えたいと、お父さんやお母さんは、転んだり、寒さに耐えられずめげそうになる子どもたちを励ましながら、斜面を何度も往復して奮闘していました。

　オニコウベスキー場では、2月18日、19日の2日間、「大崎市スノーフェスティバルinオニコウベ」が開催されます(23ページ参照)。この冬一番の思い出をつくりに、オニコウベスキー場へ行こう！

**パタ崎さんのひと口メモ**

●2017観光ガイドブックとポスターが完成したよ！

問合せ 観光交流課 電話23-7097

　大崎市観光ガイドブック第10弾が、多くの皆さんの協力で完成したぞ。

　定番の観光情報に加えて、新たに発酵食品などの隠れ

た魅力や味をとりあげ、手にしたみんなが、オリジナルの旅行プランを立てられるように、見やすい内容になってるんだ。

　ポスターは、初の試みとして、温泉と渡り鳥の２枚で１対になるポスターに仕上げたよ。

　ひとつは「求める湯が ここにある」。もうひとつは「宿泊客数 十万羽」をキャッチコピーに、人にも渡り鳥にも選ばれる、魅力豊かな大崎市を表現しているんだ。

　この一年、新しいガイドブックとポスターを通じて、全国へ大崎市の魅力をどんどん発信していくよ。

**伝統的な水利システムと地域環境の保全を両立する水田農業システム**

**vol.19　大崎耕土の豊かさを語る④**

●自然の恵みと人の知恵にはぐくまれた大崎耕土

　大崎地域は良質米の産地として全国に名を知られています。その実りは、奥羽山系によって集められた水、その水が育んだ広大で豊かな大地の「自然の恵み」と、水を大切に使う知恵（水利システム）と、土を肥やし、稲を育てる「人の知恵」の賜物です。

　船形山や荒雄岳周辺の奥羽山系に降った雨は、山の土を削り、森が蓄えた栄養分を溶かしながら、

江合川と鳴瀬川になります。この２つの川は運んで

きた山の土を洪水のたびごとに堆積させ、ミルフィーユのような縞状の土の層（写真）とともに広大な湿地帯を作りあげました。そして、湿地に育ったヨシなどの植物は湿地の環境では分解しにくいため、長い期間をかけて堆積し有機物の層となって、これもゆっくり分解しながら稲を育てる養分になります。

　山地とつながっている自然の恵みによって育まれた大崎耕土の土は、農家がたゆまず行ってきた土作りによってさらに肥沃になりました。そして水利システムによって賢く利用された豊かな水資源と、高い稲作りの技術が重なって、豊かな実りをもたらしてきました。

　持続的な農業システムと先人が築いてくれた大崎耕土の豊かな土は、次世代につなげていきたい大切な遺産です。

（写真）宮城県古川農業試験場内の水田の土壌断面（ものさしは１目盛り10センチメートル）

水田を約１m掘って見た、土の横顔を土壌断面といいます。稲作のために耕され、栄養分豊富になった表面の層(作土12cmくらい）の下には、川によって運ばれ、洪水のたびに堆積した土の層がたくさん見られます。40cmより深いところの黒く見える層は、1,000年以上も前にヨシなどの植物が堆積した層です。土は長い時間をかけて作られ、歴史を刻み込んでいることがわかります。土は大切にしたい地域の財産です。

問合せ　産業政策課世界農業遺産推進室　23-2281

**市長コラム　天地人**

●10周年記念式典を終えて

　大崎市は渡り鳥に選ばれたまちです。毎年10万羽ものマガンを中心とした渡り鳥が飛来する日本有数の飛来地です。

　酉年の新年早々に、蕪栗沼に赴き、マガンを市の鳥に選定した報告と、大崎市が次なる10年へ大きく羽ばたいていけるよう祈念申し上げてまいりました。

　マガンの朝の飛び立ちは、圧巻・雄健です。その光景に触れながら、今年は「鳥の目・鶏口牛後」の心構えで職務に取り組んでいこうと決意を新たにしたところです。

　人生や仕事に成功するためには、「鳥の目（マクロ=全体）」、「虫の目（ミクロ=部分）」、「魚の目（トレンド=流れ）」が必要と言われております。

　その三つの目の中で、今一番大切なのは「鳥の目」ではないでしょうか。

　先行き不透明な時代だからこそ、大空をかける鳥のように、高いところから広い視野を持って、物事全体を見つめていく大局観「鳥の目」がとても大切な視点です。

　さらに、中国「史記」の教え、「鶏口牛後（鶏口となるも牛後となるなかれ）」の心構えです。

　大きな組織の末端でいるより、小さな組織でもその中でトップとなって活躍する方が、尊いという考え方です。

　自立・変革が求められる今、寄らば大樹の陰よりも、オンリーワンをめざす変革の主体者の考え、行動が求められます。

　酉年の今年、一層活躍が期待されるパタ崎さんともども、全国へ・未来へ羽ばたいてまいります！

大崎市長　伊藤 康志